

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第6部門第3区分
 【発行日】平成19年6月28日(2007.6.28)

【公開番号】特開2006-85342(P2006-85342A)
 【公開日】平成18年3月30日(2006.3.30)
 【年通号数】公開・登録公報2006-013
 【出願番号】特願2004-268300(P2004-268300)
 【国際特許分類】

G 0 6 F 12/16 (2006.01)

【F I】

G 0 6 F 12/16 3 4 0 M
 G 0 6 F 12/16 3 1 0 A
 G 0 6 F 12/16 3 4 0 P

【手続補正書】
 【提出日】平成19年5月15日(2007.5.15)
 【手続補正1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0045
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0045】

また、セグメント1以降のBMAPについては、図6(b)に示す9ビットの単位領域に対応付ける論理アドレスや、図6(d)に示す7ビットの単位領域に対応付ける物理アドレスは、図6に記載したセグメント0に対応する値に対して、そのセグメントに応じて、オフセットを与えればよい。つまり、論理アドレスは $490 \times M$ 、物理アドレスは $512 \times M$ (Mはセグメント番号に対応する自然数)によるオフセットを与えた(加算した)値とすることになる。つまり、図5に示した論理アドレス範囲、物理ブロック範囲による値となる。例えばセグメント0に続くセグメント1では、図6(b)に示す論理アドレスは、 $490 \sim 979$ となり、図6(d)に示す物理アドレスは $512 \sim 1023$ となる。

【手続補正2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0093
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0093】

これに対して、例えば図11のステップS106以降の、実際に新規ブロックに対してデータを書き込む処理を開始した後において、データ書き込み処理が中断されたものとする。

この場合、ステップS111による、フラッシュメモリ上のBMAPの更新は行われないう、あるいは行われていたとしても不完全であるので、フラッシュメモリ2のBMAPは、このデータ書き込みの1つ前のデータ書き込みに対応した内容が残っている状態であると考えてよい。従って、このBMAPの予約ブロックアドレスが示すブロックは、最後の中断されたデータ書き込み処理のときに、新規ブロックとして選択されて、不完全な状態で更新データが書き込まれている状態のブロックであることになる。

このことから、ステップS207において、アクセスした予約ブロックのデータが消去済みではなく、何らかのデータが書込済みの状態であるとして否定の判別結果が得られた場合には、最後のデータ書き込み処理は中断されたと判定してよいことになる。そこで、この場合には、ステップS208に進んで、このBMAPの再構築の処理を実行してから

、この図に示す処理を終了するようにされる。

なお、フラッシュメモリ 2 において複数のセグメント（データ用セグメント）が存在する場合において、例えば起動時に、これら複数のセグメントごとに対応する中断判定を全て行うとする場合は、例えばステップ S 2 0 1 において、各セグメントごとの B M A P のアドレスを取得したうえで、以降は、セグメントごとに、ステップ S 2 0 2 ～ S 2 0 8 により説明した処理を繰り返し実行するようにすればよい。